

施策名				
1 学校教育の充実				
(1) 実社会で生きる実践的な力の育成				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	指導室	3	事業概要	平成14年度から実施。平成28年度からは小学校3年から中学3年までの全児童生徒で、小学校4教科(5・6年については5教科)、中学校5教科を12月に実施し、学力の定着状況を分析する。
標準学力調査			実施状況	令和5年度は全小・中・義務教育学校の全学年において実施することができた。指導室による町全体の結果分析を基に、各学校において、課題を把握するとともに、課題解決に向けて改善の手立てを共有するとともに検証を深めることができた。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	小学校3年生で、全教科の平均が目標値に達したものの、その他の学年は、目標値を下回った。小・中学校全体の傾向として、記述問題の正答率が低いという結果であったが、無回答の児童生徒の割合は改善傾向がみられた。活用問題の得点が目標値より高い教科や領域もあり、今後の伸びが期待できる兆候が見られた。
2	指導室	3	事業概要	国が義務教育の機会均等とその水準維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。更に教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査			実施状況	国語、算数・数学に加え、中学校のみ英語の調査を実施した。指導室による町全体の結果分析を基に、各学校において、課題の改善に向けた授業改善のポイントを全教職員で共有し、今後の授業づくりに生かすことができた。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	中学校の数学においては全国平均以上の結果となったものの、その他は全国平均を下回った。考えを支える根拠を明確にした表現の検討や問題解決に必要な情報を主体的に見出すことができるような授業実践を行う必要がある。
3	指導室	3	事業概要	「かけ算九九」「漢字の読み書き」など基礎的・基本的な知識・技能を児童生徒に着実に身に付けさせるとともに、身に付けた知識・技能を活用する力に結び付ける。
基礎学力定着(向上)プログラム			実施状況	各校において、独自に学習内容の定着を見取る検査の実施や基礎学力定着強調週間等を設けるなど、基礎基本の確実な定着を目指した取組を推進していくことができ、全体的な学力向上に繋がった。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	各種調査等の分析結果を活用し、単元で育成する資質・能力を明確にした授業改善を一層推進するとともに、児童生徒一人一人の個の実態に応じた補充学習の時間を設定や宿題の提示を工夫する必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	指導室	4	事業概要	教育大釧路校との協定に基づく連携事業で、互いが持つ有為な人材や施設を有効活用し、互いの推進事業を従前以上に高める。
教育コラボレーション構想推進プログラム			実施状況	校内研修における研究授業に附属釧路義務学校の教員が参観し協議を行ったり、附属義務教育学校の授業参観することを通して授業改善の視点を得ることができた。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	今後求められる教育の在り方等、最新の情報を得たり、資質・能力の確実な定着を図る上で欠かすことのできない授業改善に努めたりするためにも、今後も教育大との連携の場を設定し、各校において研修できる環境を整備する必要がある。
5	指導室	4	事業概要	国際社会を豊かに生きる力を育成するため英語・中国語教育を幼児期から推進し、外国語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、コミュニケーション能力の基礎を養う。
外国語初歩習得プログラム			実施状況	幼児から義務教育9年生まで英語・中国語の授業を実施することができた。また、英語においては各学校で放課後英会話教室（ＥＣクラブ）を開催し、「使える外国語」を目指した取組の充実を図ることができた。
【教育行政のスキーム】 語学力とコミュニケーション能力の育成			総合評価	令和5年度より開始した田中学園の教諭による低学年のＥＣタイムの実施や放課後の英会話教室、ＥＣレクリエーションの開催等を通して、日常的に外国語を使える場の充実を図る必要がある。また、中国語の学習を通して、文化の違いに触れるなど、国際感覚を身に付ける取組の充実を図る必要がある。
6	指導室	4	事業概要	外国語初歩習得プログラムに基づき、幼児・児童・生徒に対し、英語に慣れ親しむ活動を通してコミュニケーション能力の育成を図る。
ＡＬＴの設置			実施状況	英語の授業は原則ＡＬＴがＴＴとして授業を行うことができている。指導内容では担当教師と綿密な打合せを行い、コミュニケーション能力の育成に向けた授業を展開することができていた。また、令和5年度はＡＬＴが講師となって英語によるコミュニケーション活動を行うＥＣレクリエーションを開催することができた。
【教育行政のスキーム】 語学力とコミュニケーション能力の育成			総合評価	児童生徒の英語の学力については、義務教育9年間で英検3級取得レベルまで力をつけることができるよう、継続して、ＡＬＴを積極的に活用した取組の充実を図る必要がある。
7	管理課 総務係	3	事業概要	白糠高校の「魅力ある高校」としての特色ある教育活動の充実、そして末永い存続のため補助金の支出を行う。
白糠高校への支援（教育振興協議会補助金等）			実施状況	今年度も白糠高等学校教育振興協議会へ、教育活動内容の充実並びに高校の魅力づくりのために、4,720千円を交付したほか、白糠高校内の教室を使用した久遠塾を運営した。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	キャリア教育を見据えた新たな取組が実施され、授業内容・生活規律・国際交流・運動の面に力を入れて、学校を活性化しようとしている。中国語の指導のほか、ティームティーチングによる授業サポート等を実施し、生徒への学習サポートに取り組むことができた。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
8	管理課 学校教育係	3	事業概要	講師を学校に配置し、放課後学習を実施することで、小学校低学年から主体性や自主性、そして家庭学習習慣を身に着けさせる。
放課後学習サポート事業			実施状況	小学校1年生から6年生において、タブレットやプリントを使用した放課後学習を実施した。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	参加児童が楽しく学習に向き合いながら自主的に取り組む姿勢が継続して見られ、基礎学力の向上を図ることができた。

施策名				
1 学校教育の充実				
(2) 豊かな心と健やかな体の育成				
施策評価				
A		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	指導室	4	事業概要	指導室と町生徒指導研究協議会が連携し、児童生徒ひとりひとりを大事にする生徒指導を展開し、いじめのない学校づくりを進める。
いじめ対策(生徒指導)			実施状況	12月に、白糠高校生がファシリテーターとして進行するいじめ未然防止に向けた「子ども会議」を開催することができた。子ども会議を通して、いじめ未然防止に向けた各校の取組を共有し、望ましい人間関係づくり等について協議を行うことができた。
【教育行政のスキーム】 道徳教育の充実			総合評価	「嫌なことがあっても誰にも相談しない」、「いじめは許される」と回答する児童生徒の数をゼロにする取組の充実を図るべく、「子ども会議」の内容の工夫や、教育活動全般において道徳教育による心の育成に努めるなど、継続した取組を行う必要がある。
2	管理課 学校教育係	3	事業概要	多様化する児童生徒の悩み、ストレスに対し、カウンセリング等を行い、また、教職員に対して問題を抱える児童生徒への適切な対応について指導、助言を行う、文部科学省の派遣事業。
スクールカウンセラーの配置			実施状況	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラー2名を町立学校へ配置した。生徒への個別カウンセリングや教職員・保護者への教育相談等の実施により、生徒の心の悩みの深刻化やいじめ・不登校等の問題行動の未然防止、早期発見・早期対応に努めた。
【教育行政のスキーム】 基本的な生活習慣の定着			総合評価	教育相談の内容が多岐にわたることから、カウンセリングを受けられる回数及び時数を確保し、継続的に行う必要がある。
3	管理課 学校教育係	3	事業概要	多様な悩みやストレスを抱える児童生徒の相談及び保護者からの教育相談への助言指導を行い、不登校、教室に入れない児童生徒の適応指導、基礎学力の復習等の支援を行う。
こども支援員の配置			実施状況	教育職員免許状を有する「こども支援員」を4校へ7名配置し、学校生活におけるサポート・相談体制の充実に努めた。
【教育行政のスキーム】 特別支援教育の充実			総合評価	支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、支援体制を維持・強化するため、有資格者の確保による1校に一人以上の配置を継続する必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	指導室	4	事業概要	平成19年度より従来の特殊教育から特別支援教育に制度改正されたのを受け、発達障害の子どもを含め、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応える適切な支援を行っていく。
特別支援教育の充実			実施状況	特別支援学級に在籍する児童生徒については、個別の支援計画、個別の指導計画に基づいた教育が展開され、それぞれの児童生徒に適応した指導が行われている。また、町研の「特別支援教育部会」では各校の取組の交流や講師の講話を通して、教育活動の改善について理解を深めることができた。
【教育行政のスキーム】 特別支援教育の充実			総合評価	在籍する学級を問わず、特別な支援を必要とする児童生徒全員の個別の支援計画を整備するとともに、個の特性に応じた授業を展開するため、ＩＣＴを効果的に活用するなどして、一層、きめ細やかな指導の充実を図る必要がある。
5	指導室	4	事業概要	平成20年度より配置した栄養教諭については、各小中学校において、児童生徒の栄養指導及び管理さらに食育の推進を図ることとしている。
栄養教諭の配置と活用			実施状況	給食日より等で、食に関する情報を提供するなど、各学校における食育への取組の充実を図ることができた。また、町研の「養護部会」では食育の充実について研究を推進し、次年度の実践の改善に向けて理解を深めることができた。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	栄養教諭による食育に関する授業や養護教諭による食による健康維持増進の取組等を通して、児童生徒が自らの食生活を見直したり、地元の食材について興味・関心を喚起できたりするよう、取組を工夫する必要がある。
6	給食センター	3	事業概要	児童・生徒の栄養バランスに気をつけ献立内容の充実を図り、食品・食材の衛生管理に万全を期し、安心・安全な給食を提供する。
安全で喜ばれる給食の提供			実施状況	学校給食実施計画により、1週あたり米飯給食3.5回、パン給食1回、麺給食を隔週で実施した。 また、行事食の実施など、献立の内容を工夫しながら児童生徒に喜ばれる給食を提供した。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	衛生管理を徹底し、適切な調理の遂行や食材の管理により、円滑な運営が図られた。また、栄養基準に沿った献立で、安心・安全で、おいしい学校給食を実施することが出来た。
7	給食センター	4	事業概要	本町の豊富な地場産物を積極的に給食に取り入れることにより、地域の自然や文化、産業、更には生産者への感謝の気持ちなど、児童生徒にとって郷土白糠への愛着や理解が得られるよう「ふるさと給食」を実施する。
ふるさと給食の推進			実施状況	年間を通じて地域食材を使用した給食を提供するとともに、11月13日～17日までを「ふるさと給食週間」と設定し、児童・生徒への普及・啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	山の幸として「かぼちゃ・ごぼう・じゃがいも・長いも・にんじん・大根・しそ・チーズ・ブルーベリー・鹿肉」、海の幸として「秋鮭・灯台つぶ・柳だこ・毛ガニ」など、地元生産者の協力により白糠らしい「ふるさと給食」を実施することが出来た。

施策名				
1 学校教育の充実				
(3) 信頼される学校づくりの推進 (4) 地域全体で子どもを守り育てる体制づくりの推進				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	指導室	3	事業概要	児童生徒の学力伸長のため、校内・校外における教職員の研修機会を増やし、またその内容の深化を促進する。
教職員の資質・能力の向上			実施状況	各学校の校内研修の場や町研各部会において、授業改善について助言したり、町独自の初任研を実施したりするなど、研修の充実を図ることができた。また、白糠町教育研究所の機能を活用し、町全体で授業改善や指導方法の工夫など取組の充実を図ることができた。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価	オンライン研修が数多く提供されていることを踏まえ、各教員のキャリアアップに資する研修参加を促すとともに、授業参観の機会を意図的に設定したりするなど、研修の充実を図る必要がある。
2	指導室	3	事業概要	町の教育研究所を支援し、教育研究の中核を担う。
教育研究所の支援（白糠町教職員研究事業推進委員会）			実施状況	各部会における授業実践や講演会の実施、11月の白糠学園公開研究会の実施を通して、授業改善の方向性について町内の教職員で共通理解を図ることができた。「ふるさと学習部会」を新設し、ふるさと学習の充実に向けて取組を推進することができた。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価	ふるさと教育を基軸とした白糠町教育推進に向け、各部会において、子どもたちの実態を踏まえるとともに、育成する資質・能力を明確にした教育活動を推進する必要がある。また、令和6年度は翌年度に控えた管内の教育研究大会に向け、授業実践を通じた取組の充実を図る必要がある。
3	指導室	4	事業概要	ふるさと教育学習活動推進協議会を設置し、各校のふるさと教育の充実を推進する。
ふるさと教育学習活動の推進			実施状況	「ふるさと教育」を実現するため、それぞれの学校において総合的な学習の時間の充実を図るなど、地域に密着した取組がなされている。また、今年度は町研において「ふるさと学習部会」が新設され、一層の取組の充実を図ることができた。町教委からはふるさと学習の一環として環境教育学習内容・学習活動例一覧を提示し、各学校の取組の充実を促すことができた。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価	年間指導計画において、地域人材や地域素材を位置付け、ふるさと学習や環境教育の改善・充実を図る必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	管理課 学校教育係	3	事業概要	児童生徒の適切な教育環境を保つため学校施設の維持管理及び学校施設長寿命化計画に基づく施設の改修を実施する。
学校施設の維持管理			実施状況	学校施設等長寿命化計画に基づき、茶路小中学校外壁等塗装工事を実施した。また、暑さ対策として、町立学校の教室等にエアコンを整備する。(令和6年11月完了予定)
【教育行政のスキーム】 自分を守る安全意識の涵養			総合評価	学校施設等長寿命化計画に基づき計画的な施設改修等を実施することができている。今後についても財源確保の上、計画通り施設の長寿命化を図る必要がある。
5	管理課 学校教育係	3	事業概要	地域に学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みを整えることで、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。
学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進			実施状況	白糠地区、茶路地区及び庶路地区の町内全地区で学校運営協議会を設置しており、学校・地域が連携協力して子どもを育てる意識が高まってきている。
【教育行政のスキーム】 自分を守る安全意識の涵養			総合評価	町内全地区において学校運営協議会の設置が完了したことから、今後、学校・家庭・地域の連携をより一層強化し、地域ぐるみで「地域とともにある学校づくり」を進める必要がある。

施策名				
2 社会教育の充実				
(1) 豊かな心を育む生涯学習の推進				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	『三愛運動』の奨励・実践として、各種会議資料等にタイトル、ロゴマークを掲載。『ふるさとエコ＆クリーンしらぬか』についての調査を行う。
まちぐるみ運動の推進			実施状況	『三愛運動』や『ふるさとエコ＆クリーンしらぬか』の学校・家庭・地域での活動を奨励するための啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 まちぐるみ運動の促進			総合評価	普及・啓発運動を継続して行うとともに、今後も意識を高め活動の推進を図る必要がある。
2	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	ボランティア活動の機会充実と活動支援、人材バンクの整備と指導者養成。
ボランティア活動の推進			実施状況	『学びの支援ボランティアどさんこ』には26名の講師が登録。また、青少年育成センターの『青少年育成員』には、町内会等から90名が登録し、ボランティア活動の機会を提供した。
【教育行政のスキーム】 ボランティア活動の促進			総合評価	活動は定着しているが、今後も新たな登録者や講座の発掘に努める必要がある。

施策名				
2 社会教育の充実				
(2) 社会教育活動の充実				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	家庭教育を支援するため、『家庭教育カフェ』事業の実施や、『家庭教育の手引書「えがお」』の活用を奨励。またPTA連合会と連携し『子育てセミナー』を開催する。
家庭教育力を向上させる支援の充実			実施状況	『家庭教育カフェ』には19名が参加。『子育てセミナー』については、PTA連合会と連携して事業を展開し231名が参加。町民に対しひろく家庭教育について啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 家庭教育・地域教育の充実、子育て力の向上			総合評価	今後も学校との連携を深め、事業の工夫、家庭教育に関する情報発信・支援を行う必要がある。
2	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	青少年の健全育成を図るため、ふるさとをテーマにした活動や体験事業など、様々な学習機会を提供するとともに青少年育成センターの事業充実を図る。
青少年の健全育成事業の推進			実施状況	『ふるさと未来塾』や『明日の青少年を考える集い』『海の子山の子子ども交流事業』『八王子市白糠町子ども交流事業』など各事業を実施することができた。
【教育行政のスキーム】 青少年健全育成事業の推進、体験事業やボランティア活動への積極的な参加、生涯学習の環境整備			総合評価	自然体験等地域の基幹産業についての学びを通じて、ふるさとの魅力を再発見し、郷土への思いを深めさせるなど、健全育成活動を推進することができ、青少年への声かけや見守りも継続して行うことができた。今後も様々な形で実践活動に取り組むことが必要である。
3	社会教育課 文化振興係	3	事業概要	図書室機能やサービスの充実を図るとともに、図書室利用促進を図る各種事業を実施し、読書活動を支援する。
読書機会の拡充			実施状況	ふるさとブックスタート事業の拡充として、4か月児への絵本のプレゼントに加え、3歳児になまえ入り絵本をプレゼントした。
【教育行政のスキーム】 家庭教育・地域教育支援の充実、生涯学習の環境整備、読書活動の積極的な取組、図書ボランティア活動の奨励			総合評価	こどもの成長に応じた本をプレゼントすることで読書のきっかけづくりや習慣化を支援することができ、読書活動の推進を図ることができた。

施策名				
2 社会教育の充実				
(3) 文化芸術活動と郷土芸能の振興				
施策評価				
A		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 文化振興係	4	事業概要	町民だれもが気軽に、自由に文化活動に親しむことができる環境づくりとして、発表機会、参加機会を拡充し、活動の推進に努める。
文化芸術活動の充実			実施状況	新たな活動の発表・鑑賞の場として、文化協会の月例発表会を実施した。
【教育行政のスキーム】 文化芸術活動の充実、生涯学習の環境整備			総合評価	新たな発表の場を設けることにより、団体活動の活性化を図ることができた。また、町民に団体活動の内容を知ってもらう良い機会となった。
2	社会教育課 文化振興係	3	事業概要	郷土芸能やアイヌ文化の保存伝承活動の推進と後継者の育成に努める。
郷土芸能の伝承活動推進			実施状況	イベント参加調整等の運営協力を行った。アイヌ文化の伝承活動では、小中学校での出前講座や、チセでのアイヌ文化保存事業を支援することができた。
【教育行政のスキーム】 郷土の歴史と文化の伝承活動推進			総合評価	郷土芸能の伝承活動を推進するため、団体活動の支援や発表機会の拡充を継続的に進めるとともに、新規会員の加入促進や後継者の養成に努める必要がある。 郷土資料室の整備を行い、公民館や社会福祉センターではミニ展示を行うなど郷土資料の活用を図ることができた。

施策名				
2 社会教育の充実				
(4) スポーツ活動の振興				
施策評価				
A		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 スポーツ推進係	3	事業概要	ひとり1スポーツを目指し、各種スポーツ教室やスポーツイベントなどの充実を図り、生きがいや楽しみを重視した体力・健康づくりの推進。
生涯スポーツの充実			実施状況	障がいのある人も健常者も一緒に行えるニュースポーツである「ボッチャ」の教室を開催した。また、パークゴルフ大会などのスポーツイベントを実施した。
【教育行政のスキーム】 生涯スポーツの充実			総合評価	スポーツ推進委員を活用し、ボッチャの普及を目的に教室を開催した。また、パークゴルフ大会では、生きがいや楽しみとしての体力づくり、健康づくりの機会提供ができた。 今後は、教室内容や開催時期などを工夫する必要がある。
2	社会教育課 スポーツ推進係	4	事業概要	各種大会出場への助成や指導者の養成等、スポーツ団体やサークルの継続的・組織的な自主活動の支援と環境の整備を行う。
競技スポーツの充実			実施状況	スポーツ国際交流員の活用により、少年団及び部活動におけるバドミントンの競技レベルの向上が図られた。また、スポーツ団体やサークルの活動支援として、スポーツ協会や少年団本部等への支援や大会出場へ助成を行うなど、活動環境の整備を図った。
【教育行政のスキーム】 スポーツ大会の充実			総合評価	スポーツ団体への事業支援により、競技力の向上を図るとともに、大会開催等によって地域間交流を推進することができた。 スポーツ活動の充実を図るためには、指導者の養成や人材の確保も重要であることから、研修会の開催や競技者から指導者への導きなど、様々な方策が必要である。

施策名				
2 社会教育の充実				
(5) 社会教育施設の整備・充実				
施策評価				
A		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 社会教育係 文化振興係	3	事業概要	学習施設として利用者が安全・安心に利用できるよう、社会福祉センター・縫別自然の家・公民館など、各施設の適切な管理と整備を行う。
施設の長寿命化を図る 保全・管理			実施状況	各施設への管理人の配置や施設・設備の保守点検により、適切な管理と維持に努めた。また、社会教育施設の利便性を高めるため、施設改修に向けて具体的な内容の検討を行った。
【教育行政のスキーム】 生涯学習の環境整備			総合評価	各施設とも支障なく管理運営することができた。より利用しやすい施設づくりのため、施設や設備の老朽化、利用者の要望をふまえた改修を計画的に進めていく必要がある。
2	社会教育課 スポーツ推進係	4	事業概要	住民が体力づくりや健康づくり等、それぞれの目的に応じたスポーツ活動の場を提供し、スポーツ活動の推進を図るため、総合体育館外13施設の管理運営を行う。(指定管理者による管理運営)
利用の活性化を図る工夫・改善			実施状況	白糠町総合体育館の大規模な改修を行い、更には経年劣化等によるスポーツ施設の修繕について、利用に支障がないように管理運営することができた。 また、指定管理者により、民間の活力を活かした施設の管理運営、事業展開等により、利用促進が図られた。
【教育行政のスキーム】 生涯スポーツの充実			総合評価	施設修理・備品整備により施設機能の維持と充実を図ることができた。 指定管理者による事業や施設の充実により、利用者へのサービス向上を図ることができた。次年度以降も、施設の整備計画に基づき改修・修繕を進める必要がある。